

桂坂の地元自ら研究

～ 郊外住宅地の住民自治進化
を促す景観資産の意義 ～



○本研究の目的(2カ年)

- ・桂坂の特徴であるオープンスペース(みどり)の活用と継承による、住民自治の進化
- ・住民自治によるオープンスペースの再計画と実現性評価
- ・以上を踏まえたプロモーションによる活動人口の増加

桂坂の位置



桂坂地域の基本情報

- ・西山丘陵の南向き斜面
- ・郊外型大規模住宅地域
- ・1983年造成開始
- ・1986年入居開始
- ・2011年最終工区分譲



- ・総面積 163万㎡ ・世帯数 約3,900 ・人口 約12,000
- ・西京区 大枝北雀掛町、御陵大枝山町、御陵峰ヶ堂町の3町で構成
- ・全域が一つの小学校区(桂坂学区)
- ・みどり豊か、自然と調和、落ち着いたまちなみ
- ・京都大学桂キャンパスが隣接

桂坂の「みどり」マップ



桂坂の「みどり」を構成する要素

- ・周囲の山林・緑地、西山の遠景
- ・公園、古墳の森、野鳥遊園
- ・緑道
- ・街路樹 (モミジバフウが有名に)
- ・フォルト (379か所)
- ・道路沿いの植栽帯 (建築協定・緑化協定)
- ・学校・施設・集合住宅・店舗等の外周植栽帯
- ・住宅敷地内の緑化 (建築協定で20%緑化)

○研究の取組み概要

- ・フォルト調査及び管理ガイドライン確認
- ・近隣公園を対象とした再計画
- ・活動人口の増加



モミジバフウの街路樹



区画道路のフォルト



公園を南北に繋ぐ緑道



幹線道路沿いの植栽帯

フォルト調査

- 桂坂まちづくりの特徴ともいえるフォルト（11地区、379箇所）を住民まちあるき等で観察。
- フォルトの現状について意見交換を行い、今後どうしていくべきかを市とともに考えている。
- この活動をきっかけとし、桂坂の景観をより良いものにしていく



桂坂の「フォルト」の課題について

- ・フォルトは市道の一部。公共物であり市民の共有財産。個人所有地ではない
- ・隣接住民の維持管理は必要だが決まりがない。公共としての「みどり」は維持されるべき
- ・高齢化が進み維持管理の難しいフォルトの取扱い
- ・フォルトに隣接していない住民の協力や、自治会の取組みも重要
 - みどり・フォルトの勉強会を実施(R3.11)
 - 地域のクリーンデーを試験的に実施(R3.12)
- ・一定のルールは必要で、ガイドライン的なものが望まれる→京都市と地元で確認書を締結(R4.3)

○啓発活動として学習会



○京都市と維持管理について確認



○近隣公園を対象とした再計画 →公園利活用トライアル事業



地区内の近隣公園である桂坂公園で実施

○近隣公園を対象とした再計画 →公園利活用トライアル事業



○近隣公園を対象とした再計画 →公園利活用トライアル事業（1年目）



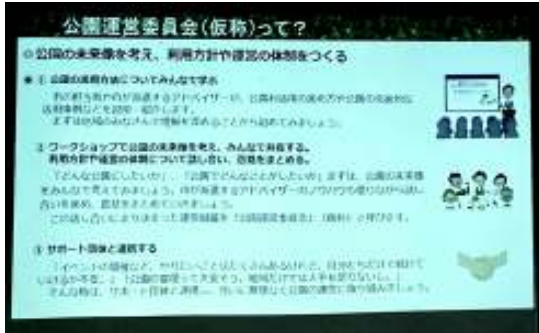
○近隣公園を対象とした再計画 →公園利活用トライアル事業（2年目）



出店者側で地元自治会等も参画 利用者も昨年より増加

○近隣公園を対象とした再計画 →公園利活用トライアル事業

社会実験の継続について、市と協議を進める



○近隣公園を対象とした再計画 →公園利活用トライアル事業

社会実験ではない公園の活用について仕組みを検討



○活動人口の増加へ向けて

- これまで関わってくれていない住民の関りを増やす

→お気に入りスポット写真コンテスト

花の交換会・販売会を実施

○活動人口の増加へ向けて



お気に入りスポットの報告会を実施
ベスト3をポストカード化

○活動人口の増加へ向けて



桂坂の花の風景・講演会を実施

○活動人口の増加へ向けて



講演会と合わせ交換会も実施
京都府立農芸高校の販売会も

○活動人口の増加へ向けて



新しい層の参加を獲得
次年度は公募による実行委員会で

○今後の活動へ向けて

- フォルトについては、一定の成果
→管理の工夫など情報発信へ
- オープンスペースも含めた公共施設の再計画
→近隣公園でのトライアル事業の継続
社会実験ではなく、常設の仕組みを構築へ
消防署出張所用地の検討会等
- 活動人口増へ向けたプロモーションの強化
→楽しみながら地域に関わる人を増やす
外の人たちの関りも必要